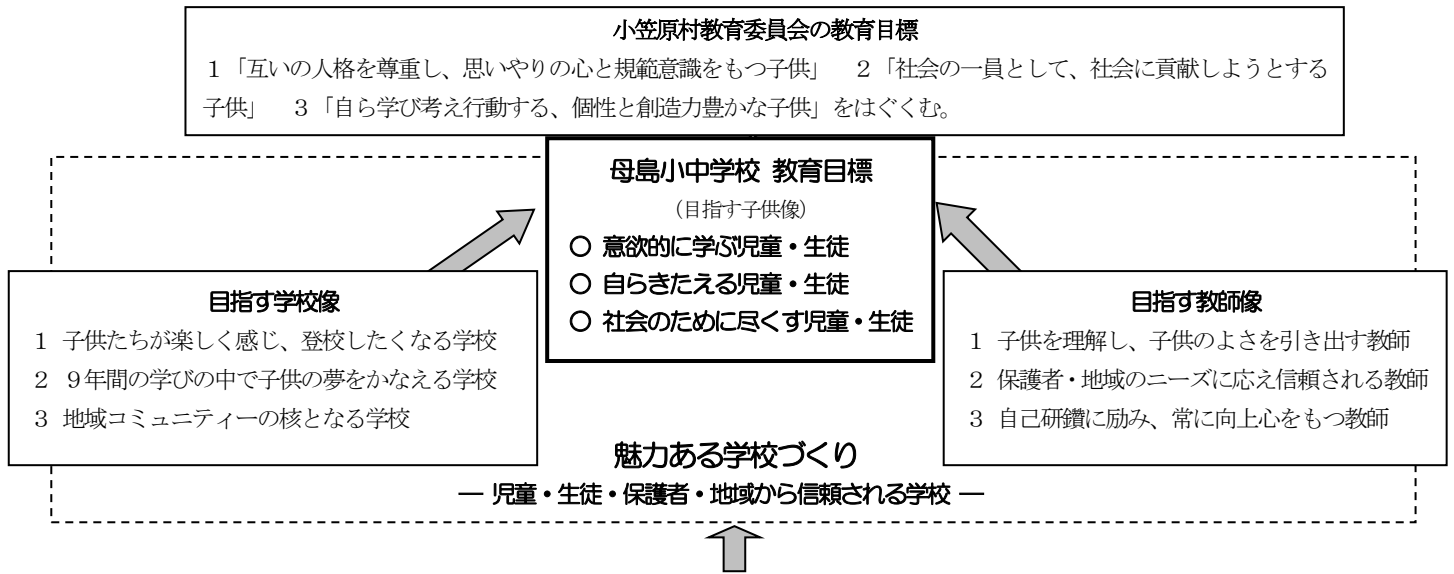


令和8年度 小笠原村立母島小中学校（義務教育学校）経営計画

※赤字部分が令和7年度からの変更（修正・補足）か所です。

昨年度より義務教育学校となった小笠原村立母島小中学校として、9年間の一貫した教育課程を編成・実施することにより、児童・生徒一人ひとりの学校生活を充実させ、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成を図り、児童・生徒が誇れる学校づくりを推進する。



今年度の取組目標と方策			
確かな学力の定着	豊かな心の育成	健康でたくましい体づくり	地域とともにある学校
<p>①昨年度（令和7年度）からの義務教育学校への校種の変更を踏まえ、義務教育9年間を見通した小中一貫学習カリキュラム「Hahajima（母島）プラン」を研究・作成し、一層小中の学習の接続・系統性を重視した授業を展開して、児童・生徒の確かな学力をはぐくむ。</p> <p>②今までも小中併設校として「音楽」「図画工作」「美術」「体育」「家庭」の実技教科においては、後期課程の教員（中学校教員）が前期課程（小学校）の授業を行ってきたが、義務教育学校として「国語」「算数」「社会」「理科」「英語」を含めた全教科においても、後期課程の教員（中学校教員）が前期課程（小学校）の授業にかかわっていくよう努める。</p> <p>③毎回の授業で、生徒が学習内容を振り返る時間を設定する。その際 Google スプレッドシートを使用し、生徒の振り返りに対しては教員が次回へとつながるコメント等を記入する。生徒の実態を把握し、指導と評価の一体化を推進する。</p>	<p>①保育園との連携・協力も一層深めながら、園児・児童・生徒の学校・園生活の多様な場面で、計画的な相互交流を行い、リーダーシップの発揮、助け合い、学び合いを通して、思いやりのある豊かな心をはぐくむ。</p> <p>②教育相談体制を強化する中で、不登校対策やいじめ防止対策に努める。特にいじめについては、その認知する基準の幅を広げ、より積極的にいじめを認知するように努め、今まで以上に早期対応・解決を組織的に図る。</p> <p>③「小笠原村SNSルール」「母島小中学校SNSルール」を再度周知し、児童・生徒へのスマートフォンやインターネット等の利用について十分に指導していく。また各家庭においても「SNS家庭ルール」を策定してもらう。</p> <p>④生活指導の9学年間の連続性・系統性を十分に確保し、発達段階に応じた指導の重点を明確にして、問題行動の未然防止や課題の発見と速やかな解決に努める。</p>	<p>①体育、保健体育の授業改善、体育的行事（運動会・ロードレース大会）や運動部活動の充実を図り、進んで運動しようとする態度を育てて体力の向上を図る。</p> <p>②スポーツ・テストを全学年で実施し、児童・生徒が自己の体力の現状を把握しながら課題点を明確にして、運動への意欲を高められるよう指導する。</p> <p>③虫歯予防や視力低下予防等の健康教育を行い、自己の心身の健康に対する関心を高めさせ、よりよい生活習慣の定着を図る。</p> <p>④小学1・2・3年では、多様な運動経験をさせる中で体を動かす快さを体感させる。小学4・5・6年では、基礎体力の向上を図りながら運動を習慣化させる。中学部生徒には、興味・関心・能力に適した運動を経験させながら、生涯にわたって運動に親しむ態度を培わせる。</p> <p>⑤学校生活全体を通して食育を推進し、望ましい食習慣等を身に付けさせ、健康的な食習慣を定着させる。</p>	<p>①学校公開の在り方や学校行事等の見直しも図りながら、広報・広聴活動の充実を図ることにより、教育活動への保護者理解を促進する。また、保護者に対しては教育活動を常時公開する。</p> <p>②全職員が、母島小中学校PTAの行事や地域行事に積極的ににかかわり、職員、保護者、地域住民相互の連携を深め、地域に根差した魅力ある学校づくりを進める。</p> <p>③様々な自然災害等を想定した避難訓練、集団下校訓練、引き渡し・引き取り訓練等を実施し、児童・生徒の安全・安心を確保するとともに、防災意識を高める。</p> <p>④「地域の子共は地域で育てる」の考えの下、園児・児童・生徒の成長が一貫性あるものとして捉え、学校がコミュニティーの核となりながら保護者・関係機関・地域の方々と連携しながら子育てを推進する。</p> <p>⑤学校ホームページの活用を一層推進し、常時教育活動を積極的に発信し、学校に対する興味・関心を高めてもらう。</p>